

# 京の伝統工芸の美技で新しいブランドに！ パーティーのテーブルウェア「en」を山科から発信

平成20年度 採択事業



臼谷保夫さん

## 陶器と仏具の古き新しきを提案

京都は伝統工芸の宝庫として、世界に誇る技術や職人を輩出してきました。その技や感性は今なお引き継がれつつ、古きものをただ守るだけでなく、作り手の挑戦、時代を反映した新生なるものを育む風土も京都であり、京都人が誇りとする気風です。

1200年以上の歴史を持つ京焼・清水焼も日本を代表する伝統産業の一つで、奈良時代に僧侶・行基が清閑寺に窯を築いて土器を作ったことが、現在、五条にある茶碗坂の始まりと伝わります。全国に知られる京焼・清水焼ですが、昨今では厳しい市場になり、本当に良いものが人々の暮らしから遠のく傾向に清水焼団地協同組合（京都市山科区）が立ち上がりました。いにしえよりの伝統ある技をもっと暮らしに取り入れ、実際に使うことで豊かな心地を演出するパーティー用テーブルウェア「en」事業です。

地元京都市山科区の活性化を目指したプロジェクトとして同組合と共に、京都伝産仏具工芸協同組合、（財）山科経済同友会、京都商工会議所の4団体がタッグを組み、それぞれの得意をenの事業に注ぐことで、新たな京都の伝統産業の活路も拓こうと平成19（2007）年よりスタート。仏具と陶器の従来の概念をくずし、現代、さらに今後のライフスタイルに“古き新しき世界”を提案するものです。



「en」の清水焼さじと漆塗り高台

## 山科ブランド誕生

パーティー用テーブルウェアenは「京都山科観光プロジェクト」として先の4団体が京都市山科区をもっと元気にしようと観光的視点で取り組んだ中で生まれた「山科ブランド」です。新商品を開発、発信することで地域力のアップ、地場産業の活性を図ろうと、山下順三氏に総合プロデュースとアートディレクションを依頼し、パーティーなどで活用してもらえる食器が考案されました。山科は琵琶湖疏水など“水”に関わりがあることから「波紋」をイメージテーマに仏師が食器としての木製のスプーンを作成。すくっ

## 伝統製品の活用

て食べる用途を、器の役割と波紋の美の演出をプラスした京都らしいフォルムの新商品です。そのスプーンと他の料理も盛りつけられる金銀黒の漆の高台もつくり、一人分のパーティー食器が揃う美しい食シーンを提案しました。

「ほんまもの技術者が、ほんまもの材料を使って、ほんまもの商品をつくる。京都はそれが当たり前に行きわたるまちであり、伝統と誇りで新しい世界を切り拓いてみよう」と取り組みました」とは清水焼団地協同組合理事の臼谷保夫さんです。この木のスプーンの陶器バージョンも製作し「清水焼さじ」として6名の作家による11種類の商品も登場。伝統の技が込められたパーティーを華やかに盛りたてるモダンなテーブルウェアが誕生しました。



実際に料理を盛り付けた様子

## 受身から、前に出る工芸品を

商品化に向けて作品の発表会を東京と地元山科区の2会場で開き、業界のバイヤーやホテル、大使館関係者などを招いて披露。単に陳列するだけでなく、実際に料理を盛り、使い方の実演を見せるなどenの機能性、重厚感や職人の匠の技を体感していただきました。そこで得た意見や指摘などからさらにスプーンの改良やアイテム数を増やすなど試行を重ね、今回の助成金も後押しとなって、平成21年3月、具体的な営業活動として新作展示会を京都らしく東山区の高台寺塔頭・月心院で開催。和菓子・俵屋吉富の協力でenの様々な器に菓子をのせて、幅広い活用法を紹介し、マスコミなどの注目も集めました。

「現代の生活様式に沿った、一歩新しい視点でものづくりに取り組むことは、伝統産業にも必要な姿勢です。陶芸も仏具も基本的に依頼ありきの“受身”の仕事なので、素晴らしい技術力を持っていても、自ら前に“打って出る”ことを職人は意識してきませんでした。その役割を今回、組合が担ったわけです」と臼谷さん。

“職人氣質”は伝統産業において誇りある姿ですが、冷え込む市場に向けて今回の事業はものづくりに従事する

人たちの意識改革として大きな転機にでもあらたのとはと語ります。

## 文化度を上げるテーブルウェアに

パーティー用テーブルウェアenとして商品化が実現し、今後は具体的に流通にのせ、販路拡大、営業展開していく段階にあります。また多くの課題が目前にあります。技術も材料も“ほんまもん”を軸とするenはそれなりの価格設定が求められ、漆器・陶器の取り扱いをケータリング企業やホテルなどがどこまで対応してもらえるかなどです。しかし安価で手間いらずの簡易商品にはない、本物を評価してくださるところで勝負しようと地道な努力を重ね、臼谷さんの心意気も高まります。「販売の特効薬はないのでこつこつと積み上げていくしかない。内的にはコストダウンを模索し、外にはモニター使用、関心をもってくださるお客様交渉、さらにはweb発信やDMづくりなど積極的に出る段階。いつまでも試行錯誤ではられません」。

「文化度」が下がりつつある日本の暮らしに、enの重厚感で豊かさを伝えたいと臼谷さん。「スーパーのトレーにのったお刺身も、清水焼の器で出されると食卓の彩りが変わるはず。それも食育であり、大切な食文化の基本なんです」。

艶・宴・円・縁の意味が込められたテーブルウェアen。清水焼と京仏具が融合した京のほんまもんは艶やかに、宴を華やかに、円く波紋のように多くの人々の縁を紡いでいくことでしょう。



東京で開催した展示会風景

## 事業概要

### 清水焼団地 協同組合

代表：小山好弘

業種：陶磁器共同販売、共同購入事業

創業：昭和36（1961）年 設立：昭和37（1962）年  
住所：〒607-8322

京都市山科区川田清水焼団地町 10-2  
TEL：075-581-6188 FAX：075-593-8120